

Eスクエア・プロジェクト



学校企画採択企画

実践計画書

企画テーマ名称

国際交流を実現するための取手地区小中学校協働学習システムの整備

～ 地域学習と国際交流学習の連携に向けた体制づくり

提出者

取手市コンピュータ教育クラブ

学校企画実施計画書

1. 採択されたプロジェクト名

「学校企画」

2. 採択された企画テーマ名称

国際交流を実現するための取手地区小中学校協働学習システムの整備

- 地域学習と国際交流学習の連携に向けた体制づくり -

3. 企画の概要

(1) 対象および担当者

《学習活動の展開》

茨城県取手市立永山小学校(4～6 学年) 福 田 理 明 (プロジェクト参加型)

茨城県取手市立戸頭西小学校(4～6 学年) 石 塚 康 英 (授業実践型)

茨城県取手市立永山中学校(全学年) 内 田 有 一 (プロジェクト参加型)

茨城県取手市立取手第一中学校(全学年) 田 鍋 文 雄 (授業実践型)

茨城県取手市立取手小学校(5～6 学年) 根 本 喜 良 (授業実践型)

《システム構築・運営》

取手市コンピュータ教育クラブ 石 塚 康 英 (デザイン担当・WEB 製作)

福 田 理 明 (管理担当)

畑井克彦氏(兵庫県伊丹市教育センター)にはアドバイザーとしてご協力いただく。

《教員の啓蒙活動》

取手市内小中学校全教員を対象としたセミナーを複数回実施 (第 1 回 = 7 月 30 日, 別紙)

(2) 実施内容

《レンタルサーバ上での基本システムの構築》(7 月)

レンタルサーバ契約および各学校に分散されている学習用 WEB ページの移行。

学習活動用共有掲示板の設置および試験運用・改良作業。

対象校のクラブメンバーによる分散・協働作業とし, ML を使って意見集約を行う。

《システムを活用したテストカリキュラムの開発》(8 月)

構築されたシステムを利用した「地域学習」のテストカリキュラムの作成。

現カリキュラムとのマッチング作業。

各実践校担当者に取手市教育委員会指導主事福田敏男氏を加え, 現在各実践校において実施されている地域学習のカリキュラムを検討し, 共同学習化を行う。各実践者のスタンスを考慮し, 期間を長く取る授業実践型とプロジェクト型の双方を作成する。また, 高木洋子氏(テレクラス・インターナショナル・ジャパン)のアドバイスをいただき, 国際交流学習をコーディネートする。

《テストカリキュラムの実践》(9～1月)

テストカリキュラムに基づく授業研究（実践授業と研究協議）による問題点の洗い出しとシステム改善。

実際の授業を広い範囲での公開の形として実践し，生徒の活動面・教員の指導方法・ネットをはじめとする PC の使用法等を中心に協議する。

《本年度の総括と次年度運用のための準備》(2～3月)

プロジェクトまとめの資料作成。(冊子・WEB)

プロジェクト進行に伴ってアップされる WEB 情報を系統的に整理すると同時に，カリキュラム・指導案等を添えて，市内小中学校全校に配付する。また，次年度以降のシステム運用のマニュアルを整備する。

《市内の希望する全教職員を対象としたセミナー》(7～2月)

地域間協働学習についてのセミナー開催。

構築したシステムの概要と活用法についての広報活動。

第1回セミナーを7月30日にじっし。以降，事例研究会等を中心に，1ヶ月に1回のペースで開催。開催は，原則として土曜日午後とする。

部分的に運用可能となった段階で WEB，ML で広報すると同時に，上記のセミナーにて解説する。

4．実施スケジュール

	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
基本システムの構築											
カリキュラムの開発											
カリキュラムの実践											
総括と次年度の準備											
セ ミ ナ ー 開 催											

(1) 基本システムの構築について

第二学期開始時の正式運用をめざし，以下のような手順で作業を進める。

6 月中にデザイン，基本部分の作成および仮運用を行い，各部の動作確認を行う。

7 月はじめにレンタルサーバを契約，仮運用部分を含めてサーバー上への集約作業を行う。

8 月中に試験運用を実施，管理を含めて本格運用体制を確立する。

(2) カリキュラムの開発について

以下の手順で実施する。

市内各小中学校の「総合的な学習の時間」における地域学習の計画の集約を行う。
共通内容の洗い出しを行い，通年での協働学習化を考慮して授業実践型カリキュラムを作成する。

短期的な協働学習の題材を見つけ，プロジェクト型カリキュラムを作成する。

両カリキュラムの内容と共通したコンセプトの海外プロジェクトを検索，また提案する。

(3) カリキュラムの実践について

開発したカリキュラムを，以下の事柄に留意しつつ，授業をはじめとする学習活動において実践する。

特殊な状況ではなく，あくまでも学校の正規の時間帯における活動であること。

イベント的ではない，継続した協働学習実践であること。

取手市教育委員会で各校に配備したコンピュータシステムを使用すること。

必要に応じて，Net-Meeting, Cu-SeeMe 等の TV 会議システムを活用すること。

(4) 総括と次年度の準備について

次年度の継続運用について，以下の内容に留意して総括し，改善・改良を行う。

通常の学習活動として展開することに無理はなかったか。

PC に精通していなくてもシステム使用は可能であったか。

管理運営に過剰な負担はなかったか。

作成したカリキュラムは生徒たちにとって魅力あるものであったか。

(5) セミナーの開催について

セミナーは，以下の事柄に留意し，原則として 1 ヶ月に 1 回，土曜日の午後に実施する。

PC 初心者の教員でも十分に理解可能な内容であること。

できる限り，学習活動の実践報告が含まれること。

市内の教員またはクラブメンバーが必要とする内容であること。

5 . そ の 他 特記事項なし。